

三字経 (其の三)

訳 仁平重光

曰 国 風 曰 雅 頌 号 四 詩 当 讽 咏

『詩経』の内容は国風〔諸国の風土歌謡〕、頌〔祭祀の楽歌〕、大雅〔帝王への頌歌〕、小雅〔諸侯への頌歌〕とに分かれ、これらを『四詩』と称し、祭時に用いる。その内容は豊かであり、よく吟詠できるようにしなければならない。

诗 既 亡 春 秋 作 寓 褒 贬 别 善 恶

『詩経』が散逸し、それを嘆いた孔子は魯の国の歴史をもとにして『春秋』を作った。周辺国の出来事を記し、褒貶(ほうへん)〔さまざまな評判〕を含めて善悪の評価をしている。

三 传 者 有 公 羊 有 左 氏 有 谷 梁

『春秋』を今に伝える『公羊伝』『左氏伝』『谷梁伝』の三冊の書がある。孔子は『春秋』を記すにあたり奥義のみを書いたので、様々な注釈書ができたのである。

五 子 者 有 荀 扬 文 中 子 及 老 庄

諸子百家の中で著名な「五子」は荀子、揚雄、王通、老子、莊子である。彼らが著した書を『子書』という。

经 子 通 读 诸 史 考 世 系 知 终 始

六経および子書を理解したら諸史を読み、各朝における興亡について系統だって考究することである。

自 羲 农 至 黄 帝 号 三 皇 居 上 世

上古の世に伏羲、神農、黄帝がいて、後世の人々は三皇と称した。

唐 有 虞 号 二 帝 相 揖 逊 称 盛 世

唐の堯と虞の舜を二帝と称する。互いに禅譲された王位による太平の世を作り出した。

夏有禹 商有汤 周文武 称三王

夏には大禹、商には成湯、周には文王、武王の開国の君主がいて、三王と称する。

夏伝子 家天下 四百載 迁夏社

夏国は十代に及び、一家系により伝承相続され、四百年を過ぎる治世がなされた。

汤伐夏 国号商 六百載 至紂亡

夏の最後の皇帝、桀の失政を成湯が討伐し、商国を興した。その治世は六百年に及び紂王の代になり亡びた。

周武王 始诛紂 八百載 最长久

周の武王は、歴史上最大の暴君であった商の紂王を倒し、周は八百年の最も長い治世を得た。

周轍东 王纲坠 逞干戈 尚游说

周が洛陽に都を移してより王の威厳は地に墜ちた。戦禍は続き天下に覇道が道を広げ、政治改革を論じて回る政客が歓迎されるようになった。

始春秋 终战国 五霸强 七雄出

周代春秋時に齊の桓公、晋の文公、宋の襄公、秦の穆公、楚の荘公の五霸が興った。戦国時には秦、楚、齊、燕、趙、魏、韓の七国が出現した。

嬴秦氏 始兼并 传二世 楚汉争

戦国時代末期、秦が興り、他の六国を併呑し、始皇帝を称した。秦の二世は国を亡ぼし、楚の項羽、漢の劉邦の争いが起きた。

高祖兴 汉业建 至孝平 王莽篡

漢の高祖劉邦が天下を治めた。平帝の時に王莽が帝位を篡奪した。〔「新」と国称した。王莽以前を西漢という。王莽が帝位を篡奪して後国は乱れた。〕

光武兴 为东汉 四百年 终于献

光武帝劉秀は長安に進攻し都を興した。これ以後の四百年を東漢と称する。献帝のときに滅んだ。

蜀魏吴 分汉鼎 号三国 迄两晋

蜀、魏、吳三国による鼎立時を三国時代と称した。（蜀、漢が魏に滅ぼされ、晋が吳を滅ぼし、）西晋、東晋にいたった。

宋齐继 梁陈承 为南朝 都金陵

（西晋の後）宋、齊に引き続き梁と陳による南朝があり、都を金陵〔南京〕に置いた。

北元魏 分东西 宇文周 与高齐

これに対し、北朝とされたのは北魏、分割された東魏、西魏、そして宇文氏の北周、高氏の北齊の各国である。

迨至隋 一土宇 不再传 失统绪

南北朝の歴史は混乱の歴史であったが、これを治め全国を統一したのは隋である。ただし、隋は煬帝に至り、無道の政治を行ったため、再び乱世を迎えた。

唐高祖 起义师 除隋乱 创国基

唐の高祖である李淵皇帝は義軍を指揮し、隋の煬帝の政治の乱れを正し、唐朝の基を造り上げた。

二十传 三百载 梁灭之 国乃改

唐朝は二十代三百年に及んだ。後梁は唐朝を滅亡させ国を改めた。

梁唐晋 及汉周 称五代 皆有由

後梁、後唐、後晋と後漢、後周を、五代と称する。各国の興亡はみな故あることであった。

炎宋兴 受周禅 十八传 南北混

宋は周よりその国を譲り受け、北宋、南宋併せて十八代を為

した。

读史者 考实录 通古今 若亲目

史書を読む者は事実に基づいて、事実と事実の間に関係する原因と結果に透徹した史観を持たなければならない。そして古今に通じ、目の当たりに歴史を感じるようになるのである。

口而诵 心而惟 朝于斯 夕于斯

研鑽するにあたっては、繰り返し読み、思考を重ねること。不断の努力を怠らず、朝に夕に続けることである。

昔仲尼 师项橐 古圣贤 尚勤学

昔孔子は、項橐を師とした。古来の聖賢ですら学問に励んだのである。

披蒲编 削竹简 彼无书 且知勉

西漢の路温舒と公孫弘は貧苦のため、前者は蒲を編んでその上に「尚書」を書き、後者は竹を削り薄片とし「春秋」を刻み、学問に励んだ。彼らは共に書を買うことができなかったが、学ぶことを知っていた。

头挂梁 锥刺股 彼不教 自勤苦

晋の孫敬は眠気を催し勉学を怠ることを恐れ、繩を頭にかげ梁に結んだ。戦国時の蘇秦は眠気をさますため、錐で己のふとももを刺した。両者ともに強制されてではなく、自ら自分を律して学んだのである。

如囊萤 如映雪 家岁贫 学不辍

晋の車胤は螢を集め袋に入れて光とし、孫康は雪映りで一閃の光を作り、読書した。家が貧しいことは向学の妨げにならなかった。

如负薪 如挂角 身岁劳 犹苦卓

漢の朱買臣は貧困であったため、柴を背負い生計を立てながら書に親しみ、隋の李密は貧困であったため、牛の世話をしながら牛の角に書籍を掛けて書に親しんでいた。苦勞

を得てなお抜きんでるために勉学に励んだのである。

蘇老泉二十七始发愤读书籍

蘇老泉（蘇洵）は二十七歳にして志を立て、自身の理想である学問の研究を行い、世に名を成したのである。

彼既老犹悔迟尔小生宜早思

蘇老泉は学門を始めるのが遅かったと後悔した。お前たち、若者よ、早くから学問を始めようと思わなくてはいけない。

若梁顥八十二对大廷魁多士

宋代の梁顥は八十二歳にして朝廷の翰林学士という官職について、多くの志ある者の「さきがけ」となった。

彼既成众称异尔小生宜立志

梁顥の成功を数多くの者が素晴らしいと称えた。お前たち若者よ、学門しようと思う志をたてなければならない。

莹八岁能咏诗泌七岁能赋棋

北齊の祖瑩は、八歳で詩歌を吟じた。唐朝の李泌は七歳のとき、皇帝に「棋」を題として詩を作った。

彼颖悟人称奇尔幼学当效之

祖瑩と李泌の二人は幼年時から傑出していたため、世の中の人はその才能を普通ではないまれなものとした。お前たちは二人を見習わなければならない。

蔡文姬能弁琴谢道韞能咏吟

（東漢の蔡邕の娘）蔡文姬は博学多才であり、琴の何弦が切れたかを聞き分けることができた。（晋朝の著名な文学者謝安の姪）謝道韞は聡明で賢く、才能あふれる女士であり、善く詩を詠んだ。

彼女子且聪敏尔男子当自警

蔡文姬と謝道韞は女性であったが聡明であった。お前たちも男子として己を戒めなければならない。

犬守夜 鸡司晨 苟不学 曷为人

犬は盗賊から護る役目を果たし、鶏は暁を知らせる。いやしくも学ばない者は、どうして人となれるだろうか。

蚕吐丝 蜂酿蜜 人不学 不如物

蚕は糸を作る。蜂は蜜を作る。学ぶことのない人間は、このような動物にも劣る。

幼而学 壮而行 上致君 下泽民

幼いとき学び、成年となって任官し、上の者は国のため、下の者は民のために人事を尽くせ。

扬名声 显父母 光于前 裕于后

名声を揚げ、父母を顕彰し、先祖の栄光を彩り、子孫をゆたかにせよ。

人遗子金满赢 我教子惟一经

人は子に財産を残す。我は子にただ一冊の経書を残す。それが最大の財産であるからだ。

勤有功 戏无益 戒之哉 宜勉力

努力すれば功を遂げる。遊んで無駄に時間を過ごせば益はない。我々は常に時間を惜しまず努力を怠ってはならない。

.....